

管理職になって授業を観察する機会が多くありますが、それ以前も総合教育センターで指導主事を務めたり、教職員課で主幹を務めたりしたので数え切れないほど授業を観察してきました。そのなかで本校だけでなく、いままでの経験で課題と思われる事例を示しました。これらの課題は生徒に問題がある場合もありますが、授業はやはり教員がコントロールできなくてはなりません。次に記されている課題を見てみましょう。

授業での課題例

- 1 授業中にケータイ、スマートフォンを使用している生徒がいる
- 2 授業中に寝ている生徒がいる
- 3 教科書やノートを持っていない生徒がいる
- 4 資料集や辞書を出していない
- 5 宿題を出しているがやってこない生徒が何人もいる
- 6 終礼チャイムが鳴っていないのに授業をやめてしまう(講義型式)
- 7 号令をかけないでいつ授業が始まったかわからない
- 8 点呼に5分もかけている
- 9 前回復習に20分~30分もかけている
- 10 未だに生徒の名前と顔が一致せず、「そこ」とか「あなた」と呼んでいる
- 11 全然宿題を出さず、予習や復習する必要がない
- 12 発問指名しても「わかりません」と答えれば、次の生徒を指名している
- 13 テスト返しのとき、問題解説や解答の説明をしない
- 14 プリントの穴埋めの解答・解説だけに終始している
- 15 グループにしているが、グループにする意義が感じられない
- 16 机間巡視ではなく机間巡回になっている
- 17 クイズのように知っているか、いないかを問うている
- 18 板書が無計画で全体的に汚くみえる
- 19 ガムを噛んだり、ペットボトル飲料を飲んだりしている
- 20 1時間の指導計画を意識しないで進捗状況を成り行きに任せている
- 21 他にもあります・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

これらの課題例について克服するための方法を考えてみてください。ここに記された課題を持っている場合、アクティブ・ラーニング等の手法を導入する以前の事です。

改善策(ヒント 例)

- 1 板書を写させている時、廊下に出て後ろのドアから生徒を見てみる
- 2 特に前列で寝ている生徒をそのままにしておくと、寝るものが増えていきます 欠伸が移るのと同じです
- 3 教科書を使いましょう 板書しましょう 教科書は一番の教材 ノートしないと振り返れません
- 4 いま十代の電子辞書保有率は 85%といわれています ロッカーには置いていませんか 高校生の学力上位者は紙辞書保有率が高いそうです 引かせないから出さないのです 安易に単語や熟語の意味をいわない 資料集に記載されているものを使いましょう
- 5 やってこなくても許しているか、やっても利点がないのでしょうかね やらせるようにしましょう 生徒自身のために 自宅学習時間をふやすためにも
- 6 終了前に生徒がそわそわしたり、ざわついたりするのは、そのような癖がついているからではないですか
- 7 号令をかけないから授業にメリハリがなく、教科書や資料集を出していない生徒もいる 号令をかけてオフィシャルモードにさせましょう
- 8 50分のうち点呼に5分かけているのはもったいない 効率を考えましょう
- 9 前回の復習で授業の半分をとってしまうのはもったいない 導入、復習は簡潔に
- 10 「そこ」、「あなた」と言われて、先生はいい気持ちしますか 発問や注意の時に名前を呼びましょう
- 11 宿題を出さない限り本校生徒の自宅学習時間は増えません 勉強しないのではなく、勉強させていないのでは 自宅学習時間数十分は大問題
- 12 「わかりません」で許していたら、毎回「わかりません」と言えばよいことになります わからない理由を尋ねましょう 分からない、間違いも共有化してこそ授業
- 13 高校生の学力上位者は間違えた箇所をなくしていきます 間違いを理解させましょう
- 14 プリントの解答を説明しているだけでは知識の定着度は高まりません 板書させたり、発表させたり、いろいろ手法をとりいれて深まる学習へ
- 15 漢字の意味や熟語、単語の意味だけでグループにする意義はない 深まる学習とは
- 16 きちんと生徒の学習状況を把握しましょう 特にできる生徒と不得手な生徒の状況を見て、授業の進捗や発問指名を考えましょう
- 17 クイズではなく、思考力を問うようにしないと学習ではありません
- 18 板書が汚いと写す気がなくなり、写さないで自宅で振り返ることができなません
- 19 要は個々の生徒一人ひとりに気づいていないこととなります 生徒の名前と顔が一致していますか
- 20 進捗状況が無計画で遅いと、損するのは生徒です もっと計画的に授業を展開し、メリハリのある授業を行いましょう
- 21 自分の授業に満足せず、絶えず研修に努めましょう